

第5学年 外国語科学習指導案

に組 男子17名 女子16名 計33名
指導者 JTE 阿久根 崇
ALT Christopher Sneller

1 単元 “What do you like?” ～インタビュー名人，友達新発見！～

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは，第5学年「Let's Start English Class I」での出会いの場面における学習を通して，世界には様々なあいさつの仕方があり，その意義は多くの国で共通していることに気付いてきている。また，友達やHRT，ALTと互いに自己紹介をし合う活動を通して，自分のことを伝えたり，相手のことを知ったりする楽しさやよさを味わってきている。さらに，I like ～.を用いて好きな物を伝えながら自己紹介をすることができるようになってきており，「友達やHRT，ALTともっと色々なことを伝え合いたい」「様々な外国の人にも自己紹介をしたり，相手のことを知ったりしてみたい」と願うようになってきている。

そこで，本単元では，What do you like?を用いて話題を広げながらコミュニケーションを図る活動を設定することを通して，相手の新しい一面を知ることができる楽しさを味わわせていきたい。また，話題に沿って相手に尋ねたり，尋ねられたことに対して自分なりに応じたりする等，コミュニケーションを工夫することの大切さにも気付かせていきたい。さらに，そのために必要な好きなことのカテゴリーを表す英語や好きなことを表す名詞等の英語を身に付けさせていきたい。

なお，ここでの学習は，鹿児島大学に在籍する留学生と自己紹介をし合ったり，互いの国の伝統的な遊びを楽しんだりする「作って遊ぼう“SUGOROKU”」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

子どもたちにとって，「好きなこと」は身近な話題であり，「新しい友達の一面を知る」「自分と友達の共通点を見つけ，より親近感を感じる」「自分のことを相手に伝える」ことができるものとして，魅力があるものとする。そのため，What do you like?/I like ～.を用いて互いを伝え合う活動を設定することは，相手意識をもって積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するのに適している。また，What do you like?と一緒に用いるsport/color/cartoon/food等のカテゴリーを表す英語や，I like ～.と一緒に用いる名詞等の英語を身に付けさせることにも適している。

このように互いの好きなことを話題にして，コミュニケーションの工夫をすることのよさに気付かせたり，伝え合うことができた達成感を味わわせたりするために，まず，単元の導入では，友達やJTE，ALTとの相互理解を目的にもたせ，「好きなこと」を話題にしたコミュニケーションへの意欲を喚起していきたい。そして，学習に必要な英語を把握させた上で，楽しませながら必要な英語を身に付けていきたい。さらに，実際のコミュニケーション活動を通して，「使う英語」や「伝え合い方」を観点とした学び合いを導入し，自分や友達の高まりを実感させていきたい。

具体的にはまず，好きなことを話題にしたHRTのクイズを提示し，意外な一面があることに気付かせることで，「周囲の人のことをもっと知りたい」というコミュニケーションへの意欲を喚起させる。また，相手にどのように尋ねればよいか課題意識をもたせることを通して，「インタビュー名人になろう」という単元の目的を明確にする。さらに，本単元での学習が，鹿児島大学留学生との交流においても効果的であることに気付かせ，学びの必要感を喚起する。

次に，試しの活動である「名人のインタビュー其の1」を通して，必要な英語に楽しませながら親しませていく。その際，想像を広げながら架空の相手や場面を自由に設定することで，「相手に尋ねたいこと」「相手に伝えたいこと」を明確にして，英語を身に付ける必要感を喚起することができるようにしていく。また，「複数の質問」「問い返し」「繰り返し」を観点とした学び合いを通して，コミュニケーションの工夫の仕方に気付かせる。

さらに、友達やJTE、ALTと好きなことを伝え合う活動である「名人のインタビュー其の2」を通して、単元の導入時に比べ、周囲の人の新たな一面を知ることができたことやコミュニケーションの工夫ができたことを観点とした相互評価を行い、自分の高まりを実感できるようにする。

このような学習を通して、相手意識を基にしてコミュニケーションを工夫しながら、相手を理解したり自分のことを伝えたりするよさを味わうことができるものとする。

(3) 子どもの実態 (対象者：5年に組33名 数値は延べ人数で、結果は主なもののみ表示)

<p>① コミュニケーションへの関心・意欲・態度について</p> <p>○ 外国の人などと英語を使って会話をするのは好きか。 <はい(29)> ・人と交流するのが楽しい(16) ・学んだ英語を使って会話ができるのがうれしい(4) ・外国の人のことや外国の文化が知れる(4) ・勉強になる(3) <いいえ(4)> ・苦手(2) ・間違えると恥ずかしい(1) ・不安(1)</p> <p>② 身に付けている外国語について</p> <p>ア What do you like?と尋ねられて理解できるか。 <できる(32)> <できない(1)></p> <p>イ What sports do you like?と尋ねられて、好きなものを答えることができるか。 <できる(29)> ・Dodgeball(6) ・Swimming(5) ・baseball(3) ・Volleyball(3) ・Basketball(2) ・Waterpall(2) <日本語での応答(4)> ・水泳(3) ・新体操(1)</p> <p>③ 学習・生活経験に関する内容</p> <p>ア JTEの“I like baseball.”という言葉に対して、どのように反応するか。 <反応あり(28)> ・うなずき(17) ・繰り返し(4) ・問い返し(3) ・あいづち(3) ・笑顔(1) <反応なし(5)></p> <p>イ 話したり聞いたりする時に、どんなことに気を付けているか。 ・声量(11) ・発音(8) ・表情(7) ・目線(5) ・話す速度(3) ・ジェスチャー(3) ・無回答(3)</p>	<p>本学級の子どもたちの多くが、英語を使った会話を行うことに好意的である。しかし「いいえ」と答えた子どももあり、「正しくなければならない」という思い込みや自信のなさが原因の一つであると考えられる。(①)</p> <p>What do you like? を聞き取って理解することはほとんどの子どもができた。これまで、ALTがWhat do you like? を用いることが度々あったため、子どもにとっては身近な表現であると捉えられる。(②-ア) また、多くの子どもが好きなスポーツを英語で答えることができた。一方、日本語で答えた子どもが4名いることも分かる。I like ~.の意味や用法は理解しているものの、スポーツ名を表す単語が分からなかったことが原因であると考えられる。(②-イ)</p> <p>学習・生活経験に関する内容について、JTEとのやりとりにおいて、I like baseball. というJTEの言葉に、多くの子どもが言語的・非言語的手段を用いて</p>
---	--

反応することができた。しかし、話題に沿って会話を続けようとした子どもは、「繰り返し」「問い返し」「あいづち」を用いた10名だけであった。会話を継続することの必要性にまだ気付いていないことが原因であると考えられる。また、反応が返せなかった子どもが5名いた。JTEが発話したbaseballが理解できず、その際にどのように対応をすればよいか分らなかったことが原因であると考えられる。(③-ア) 話したり聞いたりする際の工夫については、ほとんどの子どもが理解しており、特に、「声量」「表情」「目線」「話す速度」等の非言語的手段に着目している子どもが多いことが分かる。一方で、無回答の子どもも3名いた。話したり聞いたりする際の工夫について、漠然と意識はしていても、観点を具体的に捉えられていないことが原因であると考えられる。(③-イ)

(4) 指導上の留意点

ア 「インタビューの仕方を知ろう」では、安心感をもってコミュニケーションを図ることができるようにするために、想像を広げながら自由に相手や場面を設定できるようにし、「相手に尋ねたいこと」「相手に伝えたいこと」を基に、必要な英語をALTとJTEが適宜助言するようにする。また、黒板に絵とともにWhat do you like?/I like ~.の文字を掲示し、子どもが必要とする際に振り返ることができるようにする。

イ 「インタビューの仕方を工夫しよう」では、「複数の質問」「問い返し」「繰り返し」等のコミュニケーションの工夫を観点にした学び合いができるようにするために、JTEとALTによる会話が続かないやりとりを提示し、課題意識をもたせる。また、黒板にJTEとALTの写真とともに

吹き出しを掲示することで尋ねる側、答える側の双方共に工夫できることに気付かせる。さらに、見いだした工夫の観点は、「名人の秘訣」として可視化して捉えらえるようにする。

ウ 「友達とやってみよう」では、学んだことの達成感を味わうことができるために、「名人の秘訣」に沿った他者評価を取り入れる。その際、できている所を伝え合わせることで、子どもが互いの高まりを認め合ったり、自分の高まりに気付いたりすることができるようにする。

3 目 標

- (1) 好きなことを話題として、相手意識をもって ALT や JTE、友達に積極的に尋ねたり、自分のことを伝えようとしたりする。
- (2) 好きなことのカテゴリーを表す英語や好きなことを表す名詞について、外来語と英語の発音の違いを体験的に理解することができる。
- (3) “What do you like?” “I like ~.” を身に付け、好きなことを尋ねたり伝えたりすることができる。
- (4) 「複数の質問」「問い返し」「繰り返し」の観点で、工夫してコミュニケーションを継続できる。

4 指導計画（全4時間）

思考の高まり	過程	学習課題と主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
スネラー先生 のことで知らない こともあるんだな。 新しい友達のことを もっと知りたいな。	意欲をもつ	Let's Play “What do you like?” Quiz . ・ ALT について知っていること ももっと知りたいことを話し合う。 ・ 本単元での目的を明確にする。	○ 「友達などに尋ねてみたい」という意欲を喚起するために、好きなことを話題にした HRT についてのクイズを ICT を活用して提示し、意外な一面があることに気付かせる。
インタビューの仕方が分かったよ。知っている英語を使ってできるようになってきた。	つかむ	インタビュー名人になって、好きなことについて、友達の新しい一面を新発見しよう。 ・ 学習の計画を立てる。 Let's Give An Interview. ・ プロ野球選手にインタビューしている人の映像を視聴する。 ・ リズムチャンツをする。 ・ 名人のインタビュー其の1をやってみる。 ・ 名人の秘訣①をまとめる。	○ 本単元でのコミュニケーションの図り方を見通させるために、プロ野球選手にインタビューをしている人の映像を提示し、質問と応答で会話が展開していることに気付かせる。
インタビューできるようになってきたけど、よりよいインタビューをするためには、もっと工夫する必要があるそうだ。	挑戦する・広げる	Let's Think About How To Interview. ・ JTE と ALT によるやりとりを視聴し、課題をつかむ。 ・ リズムチャンツをする。 ・ 名人のインタビュー其の1を工夫する。 ・ 紹介し合い、相互評価をする。 ・ 名人の秘訣②をまとめる。 ・ 次時の活動の見通しをもつ。	○ コミュニケーションの工夫の仕方について課題意識をもたせるために、JTE と ALT による会話が続かないやりとりを提示する。
学習を生かして、友達のことを今までよりもっと知ることができた。	振り返る・生かす	Let's Interview Each Other. ・ リズムチャンツをする。 ・ 名人のインタビュー其の2をやってみる。 ・ 単元を通した自分の高まりを振り返る。	○ コミュニケーションの工夫の仕方について「複数の質問」「問い返し」「繰り返し」の観点に気付かせるために、JTE と ALT によるやりとりと、代表の子どものやりとりを比較させる。 ○ 単元を通した高まりに気付かせるために、「名人の秘訣」の観点に沿った相互評価を取り入れ、互いに認め合えるようにする。

5 本 時 (3 / 4)

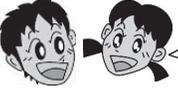
(1) 目 標

好きなことを話題として、積極的に相手に尋ねたり自分のことを伝えたりしようとするともに、相手の発話に应答するなどのコミュニケーションの工夫の仕方について気付くことができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、思考の高まりを目的にした学び合いが重要だと考える。そこで、JTE と ALT が会話が続かないやりとりを提示し、「どんな工夫をすればよいか」と問うことで、本時の課題を焦点化する。また、「JTE と ALT の会話が続かないやりとり」と「代表の子どものやりとり」を比較させ、コミュニケーションの工夫について「複数の質問」「問い返し」「繰り返し」に気付かせる。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	使用英語・ルール	時間	教師の具体的な働きかけ
意欲をもつ	1 Watching Skit 2 Meeting Today's Target Let's Think About How to Interview. ・相手によりよくインタビューをするには、どんな工夫をすればよいのだろうか。	J:Hello,everyone. I'm Takashi Akune. Today's guest is Mr. Sneller. A:Hello.Mr.Akune. J :May I interview you? First,What color do you like?	10	○ 本時の課題を焦点化するために、JTE と ALT による会話が続かないやりとりを提示し、「よりよいコミュニケーションにするためには、どんな工夫をすればよいか。」と問う。その際、JTE・ALT の写真とともに吹き出しを黒板に掲示して可視化することで、尋ねる側と答える側の双方共にコミュニケーションの工夫ができることに気付かせる。
	3 Practice 4 Rhythm Chants	A:Color? I like Orange. J: (Just smile)...		
つかむ	5 Think How to Interview  英語には慣れたよ。早くインタビューをしてみたいな。	【チャンツで扱う英語】 What (sport,color,cartoon, food) do you like?/I like (baseball,soccer,red,black,Doraemon,One piece,pizza)./	10	○ 英語に必要な感をもたせながら口頭練習に取り組ませるために、「話題にしたいこと一覧表」として子どもの意見を掲示し、What do you like?と一緒に用いる sport/color/food/cartoon 等のカテゴリに関する英語は、一覧表に応じたものを扱うようにする。
	【ペアでの学び合いで、英語を身に付ける】  英語にはすっかり慣れたよ。先生達と友達の会話を比べてみて。自分達の会話をもっと工夫できそうだったよ。			
挑戦する・広げる	【よりよい伝え方について考える】 先生達の会話と比べて、友達の発表は言葉のやりとりが多かったよ。よりよい会話にするために、他にも付け加えられそうだな。 	学び合いの観点 〈言語的手段の観点〉 ・複数の質問 ・問い返し ・繰り返し 〈非言語的手段の観点〉 ・声量 ・アイコンタクト ・相手との距離 など	20	○ コミュニケーションを工夫するための観点である「複数の質問」「問い返し」「繰り返し」に気付かせるために、机間指導を通して子どもの実態を把握し、コミュニケーションの工夫を取り入れているペアに発表をさせる。そして、板書の写真と吹き出しを用いて JTE と ALT による会話が続かないやりとりを振り返らせ、代表の子どものやりとりと比較させる。比較を通して気付いたことはワークシートに記入させることで可視化し、その後、名人の秘訣②として全体で共有する。
	6 Presentation 友達は工夫できていたよ。“I like rugby.”の後に、相手に“ Oh,rugby?”と問い直しているのがよかった。			
振り返る	7 Reflection  工夫して会話をするのができたよ。次は、もっとたくさんの友達に好きなことを尋ねてみたいな。		5	○ 学んだことの達成感を味わうことができるために、他のペアと会話を見せ合い、相互評価を通して互いの高まりを認め合う活動を設定する。その際、観点を名人の秘訣②にする。
	8 Ending			